

(様式第5号)

市民協働推進モデル事業報告書

実施団体	代表実施団体	特定非営利活動法人あかね (担当者 中山遼)																																																							
	合同実施団体 (*協議体・実行委員会等で実施した場合、構成団体をすべて記載してください。)	(担当者)																																																							
岡山市の担当課等	課名	生活保護・自立支援課		電話	086-803-1349																																																				
	担当者	氏名	藤元 静	職名	主任																																																				
	課名	こども福祉課		電話	086-803-1221																																																				
	担当者	氏名	武 裕子	職名	課長補佐																																																				
		氏名	小笠 佑介	職名	主事																																																				
事業の名称	生活困窮など困難を抱える学童期の子どもの学習習慣の定着を図るためのICTを活用した学習サポート事業																																																								
達成した定性的効果と定量的効果 ※アンケートなどあれば添付してください。	<p>【定量的効果】 学力の変化など</p> <p>定期テスト得点の平均点推移においては、明確な効果は認められないものの、テスト範囲を広げたり、単元の学年を上げたりする利用者もあり、学力の向上が伺えた。</p> <table border="1"><caption>定期テスト得点の平均点推移</caption><thead><tr><th>月</th><th>平均点</th></tr></thead><tbody><tr><td>6月</td><td>62.0</td></tr><tr><td>7月</td><td>78.3</td></tr><tr><td>8月</td><td>73.0</td></tr><tr><td>9月</td><td>72.7</td></tr></tbody></table> <p>学習意欲や学習時間の変化など</p> <p>「不安感なく学習できている」「学習を楽しんでいる」「自発的に学習している」「学習の理解度は上がっている」「学習に持続的に集中できている」はいずれも良い水準であった。</p> <p>(別紙添付) 学力定期テスト</p> <table border="1"><caption>学習意欲や学習時間の変化</caption><thead><tr><th>月</th><th>平均</th><th>安心</th><th>楽しさ</th><th>主体性</th><th>理解</th><th>集中</th></tr></thead><tbody><tr><td>6月</td><td>3.5</td><td>3.5</td><td>3.5</td><td>3.5</td><td>3.5</td><td>3.5</td></tr><tr><td>7月</td><td>3.5</td><td>3.5</td><td>3.5</td><td>3.5</td><td>3.5</td><td>3.5</td></tr><tr><td>8月</td><td>3.5</td><td>3.5</td><td>3.5</td><td>3.5</td><td>3.5</td><td>3.5</td></tr><tr><td>9月</td><td>3.5</td><td>3.5</td><td>3.5</td><td>3.5</td><td>3.5</td><td>3.5</td></tr><tr><td>10月</td><td>3.5</td><td>3.5</td><td>3.5</td><td>3.5</td><td>3.5</td><td>3.5</td></tr></tbody></table> <p>【定性的効果】 ・学習意欲など</p> <p>ICT教材のテスト点数によって付与されるポイントやバッチ集め、着せ替え</p>					月	平均点	6月	62.0	7月	78.3	8月	73.0	9月	72.7	月	平均	安心	楽しさ	主体性	理解	集中	6月	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	7月	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	8月	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	9月	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	10月	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5
月	平均点																																																								
6月	62.0																																																								
7月	78.3																																																								
8月	73.0																																																								
9月	72.7																																																								
月	平均	安心	楽しさ	主体性	理解	集中																																																			
6月	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5																																																			
7月	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5																																																			
8月	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5																																																			
9月	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5																																																			
10月	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5																																																			

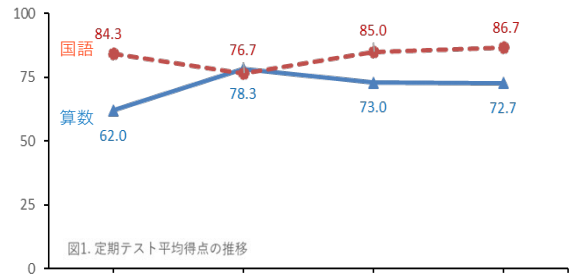
	<p>機能に夢中する子が多く、学習意欲の向上が見られた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもの様子や態度の変化など <p>多動傾向のあり事業開始時は暴れたり逃げ回っていた子どもが、現在はスタッフの膝に乗って話しや学習をするようになったり、学校や家庭でのことを相談するようになったりと、学習のだけでなく子どもたちの居場所になっている様子が確認できた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習支援の効果など <p>保護者アンケートから「少し点数があがった」「解けなかった問題が自力でできるようになり始めた」「点数がよくなった!」「自習をするようになりました」「ふとした時に iPad を触って勉強している」などの回答が見られた。</p> <p>(別紙添付) 学習態度の評価、保護者アンケート</p>
<p>市と協働した内容と協働の効果</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 団体が果たした役割 <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習支援の実施 ・ 体験学習の提供 ・ 初回面談 ・ 保護者との連絡・相談支援 ・ 関係機関への連絡・広報 ・ 保護者アンケートや子どもへのアンケートの実施 2. 岡山市の担当課が果たした役割 <ul style="list-style-type: none"> ・ 事業全体への助言 ・ 一般施策化に向けた検討 ・ 利用児童・保護者および支援者のアンケートや、事業への問合せ等の内容分析 ・ こども相談主事やケースワーカー等、対象世帯支援者への協力依頼 ・ 夏休み期間中に、関係機関と連携した集合型イベントを企画提案 ・ 広報活動に対する協力（市民のひろば掲載、児童扶養手当受給世帯への郵送など） 3. 協働した効果 <ul style="list-style-type: none"> ・ 対象世帯への周知を行い、1年目は学区を限定し8名、2年目は市全域対象としたため、27名のこどもへの学習支援ができた。 ・ 関係機関への周知徹底 ・ 教育委員会と話しをし、小・中学校長会での説明、こども相談主事への説明会を実施した ・ 令和2年度1月からの委託事業化
<p>事業の内容</p> <p>※事業内容が具体的にわかる資料を添付してください。(チラシ、報告書、写真等)</p>	<p>《学習支援の実施》</p> <p>①来所型（週に一回）</p> <p>児童が団体施設に来所。ICT教材を用いて、団体スタッフ・ボランティアが学習支援を行う。状況に応じてアナログ教材を併用も検討する。</p> <p>②遠隔型／訪問型（週に一回のオンライン通話＋状況に応じて月2回程度の訪問）</p> <p>来所が難しい対象世帯にICT教材アカウントを発行。週1回45分程度のテレビ電話もしくは電話にて学習支援を行うと共に、児童のアカウントに宿題を発行することで、家庭での学習習慣の定着を図る。遠隔支援のみによる対応が困難な場合は、月に2～4回程度利用者宅を訪れ、訪問型による直接学習支援でフォローを行う。</p> <p>③広報</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・対象世帯へのチラシの郵送による広報。公民館等の公共施設へのチラシの配架。 ・教育委員会との話し合いを持つことができ、次年度からの学校への周知に協力が期待できる。 																					
事業実施経過	<ul style="list-style-type: none"> ● 支援開始時期 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 参加者の募集(前年度からの継続者及び新規希望者) ➢ チラシによる広報(LINE・Youtubeにより参加促進) ➢ コロナ感染拡大及び緊急事態宣言により、予定していた体験会などを中止し、継続的な業務(問い合わせ対応、初回面談、学習支援)の実施に専念することに。 ・4月 チラシのリニューアル(LINEへの登録QRコードを挿入) ・5月 コロナによる来所利用の休止 新チラシの配布 ・6月 チラシ配布後の問合せLINEからの反応が14件中10件あり 保護者向けのアンケートLINEにて送付実施 来所型支援のスタッフのボランティア募集を行った 就学援助申請受付にてチラシ配布 ・7月 来所型利用者に対し、毎回支援者によるアンケートを実施開始 利用者が24名、体験中・連絡待ち5名となり、新たな募集は中止 教育委員会と話し合いの場を持つ ・8月 新規申込を締切りとする 施策化にむけての準備 ・9月～12月 施策化へ向けて準備 ● 随時の支援 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 問い合わせに対しての対応及び初回面談への接続 ➢ 訪問・遠隔・拠点型の週に一回の継続的なサポート ➢ 月に一度の定期テスト 																					
実施のうえで連携した団体とその内容	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 50%;">名称</th> <th style="width: 50%;">内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td></tr> </tbody> </table>	名称	内容									<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 50%;">名称</th> <th style="width: 50%;">内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td></tr> </tbody> </table>	名称	内容								
名称	内容																					
名称	内容																					
翌年度以後の予定	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 次年度に一般施策 <input type="checkbox"/> 市民協働推進モデル事業として事業を継続し、次々年度に一般施策 <input type="checkbox"/> 次年度に提案団体の自主事業 <input type="checkbox"/> 市民協働推進モデル事業として事業を継続し、次々年度の自主事業 <input checked="" type="checkbox"/> その他(R2年度1月より一般施策化済み) <p>----- 具体的な計画があれば記載してください。</p>																					

【別紙】定性的効果と定量的効果

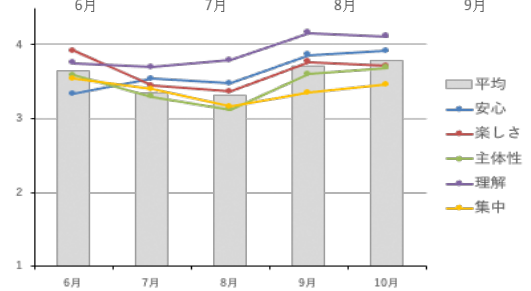
① 学力の評価—定期テスト得点の推移

国語と算数それぞれの6月度と9月度の平均点の間に統計的有意差はみられなかったが、テスト範囲を広げたり、単元の学年を上げたりする利用者もおり、学力の向上が伺えた。



② 学習態度の評価—観点別5段階評価

「不安感なく学習できている」「学習を楽しんでいる」「自発的に学習している」「学習の理解度は上がっている」「学習に持続的に集中できている」はいずれも良い水準であった。

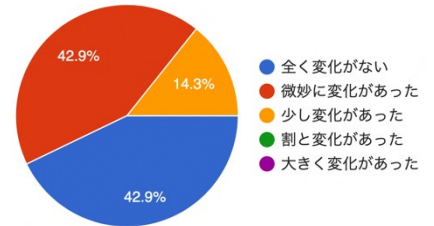


③ 保護者アンケート

(ア) 成績(テスト・通知票)に変化がありましたか？

(自由記述欄)

「自習をするようになりました」「ふとした時にiPadを触って勉強している」
「通い始めはタブレットを一生懸命やっていたが最近はタブレットより行って勉強するだけになってきた」

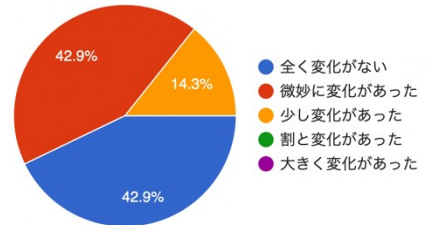


(イ) 家庭での学習時間に変化がありましたか？

(自由記述欄)

「良いところが増えたように感じました」「少し点数があがった」「解けなかった問題が自力でできるようになり始めた」「1年生なので比べる対象がありません」

「点数がよくなった！」「教えてもらっている時間は楽しそうだが、覚えていないため変化がない」



(ウ) その他日常生活で変化が感じられることがあれば教えてください(自由記述欄)

「楽しみにしています」「訪問してもらっている1時間はきちんとしている感じだが、それ以外は何も変わっていない」「勉強は好きじゃないから全然やらないけど、まなびたはクイズ楽しいようです」「フルタイムで働いていて学童に通っているの、家でまなびたをする時間は無いです」「まなびたに行くのが凄く楽しみみたいです。大学生のお兄さん、お姉さん、他校のお友達と仲良く遊べている様です」「先生との勉強は楽しいみたいで、勉強も最近は嫌だと言わなくなった！」